

目的・目標を持つことによる子どもたちの問題解決能力向上に関する研究

辻 陽平 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 谷川 尚己

キーワード: 「夢」「希望」, 自己肯定感, 問題解決能力

1. 緒言

近年の学校における, いじめや不登校, 無気力, 学力低下などの問題は, 「夢」「希望」などといった自己肯定感を持つことができなくなっていることが原因の一つと言われている。しかし, 一概に生きることに對して, 関心や意欲が低下しているわけではなく, 潜在的な資質は高いことが裏付けられているため, 環境や指導方法次第で子どもの可能性は大きく開かれると言われている。このことから教育において, いかにか若者の心を豊かにし, それぞれに合った目標を持たせることができるかで, 可能性は広がることかわかる。本当にこれだけはやり遂げたいということをその時々や人生を通して見つけることができれば, 努力する力が生まれ, 様々な問題に向き合うことやそれを超えていくことで自己肯定感が高まり, 仲間と協力することなど, 総合的な問題解決能力向上につながるのではないかと私は考える。

そこで, 本研究では, 「夢」「希望」をもつことがいかにか人間の力になり, 自己肯定感を高め, これから生きる上で重要になってくる問題解決能力の向上につながるかを研究し, そのためにはどのような教育を進めていくことが大切かを考察することを目的に研究を進めていき, 子どもがより生き生きとし, より豊かになっていくように役立てたいと考える。

2. 研究方法

文献研究

3. 結果と考察

まず, 自己肯定感とは, 自分の良い部分も足りない部分も受け入れた上で, 前へ進んでいこうと自分を認めることのできる力である。目的・目標を日々の努力によって達成し続けることによって高まるも

のであるという点が大いことから, 「夢」「希望」を持つことと, 自己肯定感を高めることは関係が深い。

次に, 問題解決能力は, 大きく, 問題を正しく認識する力・コミュニケーション能力・知識, 情報をツールとして使いこなす力の三つにわけられる。

「夢」や「希望」を果たしていこうとしたときにほとんどの場合壁が生じることから, 果たしたいと思う力が強ければ強いほど, 問題解決能力は向上する。

このことから, 「夢」「希望」を持つことと, 問題解決能力は関係が深いことがわかる。

そして, 「夢」「希望」を持つことと, 自己肯定感, 問題解決能力は, 学校生活の様々な場面において高められる可能性があることが考えられる。どの場面でもどの能力を育むことはできるがわかりやすいところと言えば, 学活, 総合的な学習の時間, キャリア教育, 道徳においては, 「夢」「希望」を抱く力。芸術科目, 学校行事では, 自己肯定感。授業場面では問題解決能力が育まれることが見込まれると考える。

4. まとめ

「夢」「希望」を持つことと, 自己肯定感, 問題解決能力の三つの要素は, 相互に作用し, 高まっていくことが分かった。この三要素を高めていくには, 教員が責任と熱意をもって, 児童・生徒一人ひとりを大切にしたい豊かなかかわりがいかにかできるかが重要だと考える。

引用・参考文献

作田澄泰 中山芳一「コミュニケーション行為による自己肯定感向上に関する研究—キャリア教育の視点から見た道徳授業実践を通じて—」

高橋佳子「1億総自己ベストの時代 人生の仕事の見つけ方」